

## 2018 年度助成 エネルギーシフト部門 成果物一覧

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b> エネルギー基本計画見直しへの働きかけと、新しいエネルギーのありかた提案</p> <p><b>【助成先】</b> e シフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)</p> <p>(活動内容)</p> <p>2018 年度は、2017 年度から引き続いてエネルギー基本計画改訂(第 5 次)の問題に中心に取り組みました。プロセスが佳境を迎えた 4 月には、市民参加プロセス(意見聴取会さえ開催されなかった)について院内集会を開催、5 月には署名提出、パブコメ呼びかけを行いました。2017 年 12 月から呼びかけた署名は約 49,000 筆、他団体の同趣旨の署名と合わせて 129,057 筆となりました。</p> <p>第 5 次エネルギー基本計画は、市民参加も限られた(パブコメのみ)まま、第 4 次計画とほぼ同じ方向性のまま 7 月に閣議決定され、緊急記者会見を開催。これらの連携した対応によって、「原発・石炭火力推進」の方向に反対の声を可視化しました。</p> <p>またこの過程で制作したリーフレット「どうする?これからの日本のエネルギー」は、2017 年度に約 9 万部配布し、2018 年度には改訂版を発行。各地の学習会やイベントなどで活用されています。</p> <p>また、「第 5 次エネルギー基本計画ファクトチェック」を作成し、3 月に公開・記者会見を行いました。</p> <p>このほか、8~11 月には原賠法改正に関する問題、後半には電力市場改革に関する諸問題(容量市場、非化石価値取引市場など)に取り組みました。</p>	1	「原発とエネルギー問題を考える 12 の疑問」(2018.4)	<a href="http://ene-rev.org/wp-content/uploads/2018/04/12nogimon180401_02.pdf">http://ene-rev.org/wp-content/uploads/2018/04/12nogimon180401_02.pdf</a>
	2	リーフレット「どうする?これからの日本のエネルギー」改訂版(2019.1)	<a href="http://ene-rev.org/wp-content/uploads/2017/12/smnen_2.pdf">http://ene-rev.org/wp-content/uploads/2017/12/smnen_2.pdf</a>
	3	【e シフトセミナー】 これからの電力市場について考える ~容量市場とは何か?そしてその課題は?(2019.1.21) 動画公開(前半)	<a href="https://youtu.be/xxB6AtEOTyQ">https://youtu.be/xxB6AtEOTyQ</a>
		動画公開(後半)	<a href="https://youtu.be/Ups8kuHEeNk?t=4">https://youtu.be/Ups8kuHEeNk?t=4</a>
	4	4. 第 5 次エネルギー基本計画ファクトチェック!(2019.3)	<a href="http://www.eshift.club/energyb_fc.html">http://www.eshift.club/energyb_fc.html</a>
	最終報告書	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/eshift01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/eshift01.pdf</a>	

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b> 若狭の原発再稼働反対&amp;核のゴミの中間貯蔵反対</p> <p><b>【助成先】</b> 避難計画を案ずる関西連絡会</p> <p>(活動内容)</p> <p>2018年度の取り組みは、①関西電力の使用済核燃料の「中間貯蔵施設」反対、②大飯原発の再稼働反対、③30km圏内自治体にも「事前了解の権限」を求める活動、④関電原発の火山灰問題等を中心として、これらの課題について、自治体への申入れ、集会等に取り組んできました。</p> <p>①和歌山県白浜町(旧日置川町)では、2018年初めから、関電の「中間貯蔵施設」に反対する精力的な活動が取り組まれていたので、これに連帯し、4月に200団体の賛同を得て白浜町長へ申入れを行いました。カラーリーフを18,000部作成し、地元での戸別訪問・新聞折り込み等に活用してもらいました。また、京都府等にも申入れを行い「中間貯蔵施設は受け入れない」と、再度回答を得ました。白浜町内で反対運動が強まる中、町長は9月議会の冒頭で、「受け入れない」旨を表明しました。これを受けて10月に、白浜町と高浜町からゲストを迎え、「核のゴミ捨て場『中間貯蔵』はいらない！関西集会」を開催し、今後、福井県の原発サイト内乾式貯蔵にも反対していくこと等を訴えるアピールを發しました。</p> <p>②関電は大飯原発再稼働の条件として、2018年12月末までに、「中間貯蔵施設」の候補地を示すと福井県知事に約束していました。関電が約束を守れなかったため、福井県知事に対して、再稼働の了承を取り消すよう求める活</p>	1	申し入れ等回数:京都の避難元6回/滋賀の避難元5回/避難先・関西広域連合5回/福井・岐阜6回	
	2	参加団体含む共同制作リーフレット「火山灰審査のやり直し急浮上 大飯原発4号の5月中旬原子炉起動は中止を！大飯3号、高浜3・4号の運転中止を！」	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_kazanbai180406.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_kazanbai180406.pdf</a>
	3	滋賀県申し入れ(2018.4.12)「市民団体原発停止を」『中日新聞』(2018.4.13)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/20180412shiga_youbou.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/20180412shiga_youbou.pdf</a>
	4	白浜町長に要望書提出(2018.4.16)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/shirahama_yobo180416.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/shirahama_yobo180416.pdf</a>
	5	カラーリーフ「白浜に核の『中間貯蔵施設』拒否を」『毎日新聞和歌山版』(2018.4.17) 「白浜町長に要望書」『紀伊民報』(2018.4.18)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20180417/ddl/k30/040/482000c">https://mainichi.jp/articles/20180417/ddl/k30/040/482000c</a>
	6	カラーリーフ「白浜に核の『中間貯蔵施設』はいらない」	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_cc_syokai201804.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_cc_syokai201804.pdf</a>
6	京都府申し入れ(2018.4.23)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kyoto_pref_req180423.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kyoto_pref_req180423.pdf</a>	
6	「原発再稼働反対 西脇知事に要望」『毎日新聞京都版』(2018.4.24) 「原発の安全協定 府に締結を要望」『京都新聞』(2018.4.24)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20180424/ddl/k26/040/432000c">https://mainichi.jp/articles/20180424/ddl/k26/040/432000c</a>	

<p>動を即刻開始しました。全国から 272 団体の賛同を得て、福井と関西の共同の取り組みとして、1 月に福井県に申入れを行いました。「中間貯蔵施設」、原発敷地内の乾式貯蔵施設は、原発の再稼働を続けるためのもので、約 50 年後に使用済燃料の搬出先はなく、地元を核のゴミ捨て場とするものです。</p> <p>③原発再稼働に関する「事前了解の権限」については、滋賀県はこの権限を求めて関電等と話し合いを進め、京都府は「地域協議会の中で引き続き求めていく」と申入れ時に回答しています。今後は、これらを実現させていく必要があります。</p> <p>④原子力規制委員会は 2018 年 11 月に、京都市越畑地点の火山灰(DNP:大山生竹火山灰)層厚を 25cm とする「新知見」を確定しました。これによって、関電の原発敷地では、約 20cm の火山灰層厚となります。現行の設置変更許可では 10cm で運転を認めています。そのため、現行の許可は無効となり、原発を止めて再審査が必要だと私たちは主張してきました。規制委員会は、どのような規制対応を行うのかいまだ明らかにしていないため、今後も継続した課題となります。</p> <p>◇ユージン・スミス生誕 100 年にあわせて、2018 年 12 月には「水俣と原発 写真展とトーク」を開き、6 日間で 300 名以上の来場者がありました。初の試みでしたが、原発事故の問題等を広く知ってもらうことになりました。</p>	7	抗議声明「大飯原発4号機の原子炉起動に断固抗議する！」(2018.5.9)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/statement180509.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/statement180509.pdf</a>
	8	原発を考えるびわ湖の会と共同で「大津市原子力防災訓練(春季)監視行動報告書」発行(2018.6.25)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_otsu_bousai_201806.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/pamphlet/leaf_otsu_bousai_201806.pdf</a>
	9	「見解:関電の越畑火山灰(DNP)の再調査結果に科学的根拠なし ~6月29日の意見交換会を踏まえて~」(2018.7.25)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/koshihata20180725.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/koshihata20180725.pdf</a>
	10	和歌山県「格のゴミはいらん日置川の会」結成設立総会に講師派遣(2018.7.29) 「日置川地域 核燃料施設は不要」『紀伊民報』(2018.7.22)	
	11	岐阜県と揖斐川町に申し入れ(2018.8.10) 「事前了解権の協定 県などに締結要望」『岐阜新聞』(2018.8.11) 「原発の安全協定締結 県と揖斐川町に要望」『中日新聞』(2018.8.11)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/gifu_ibigawa_q_yobo180810.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/gifu_ibigawa_q_yobo180810.pdf</a>
	12	抗議声明「関電の運転最優先のずさんな安全管理がもたらした高浜4号の原子炉容器上蓋配管からの放射能漏れ糾弾」(2018.8.22)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement180822.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement180822.pdf</a>
	13	菅野みずえさんお話し会(2018.9.8) 「福島のを明石で語る 東日本大震災で三木に移住の女性」『神戸新聞』(2018.10.12)	<a href="https://www.kobe-np.co.jp/news/akashi/201810/0011722863.shtml">https://www.kobe-np.co.jp/news/akashi/201810/0011722863.shtml</a>
	「仮設暮らし、移住、そしてがん… 福島原発事故で避難した女性の苦悩」『神戸新聞』(2018.10.12)	<a href="https://www.kobe-np.co.jp/news/akashi/201810/0011722867.shtml">https://www.kobe-np.co.jp/news/akashi/201810/0011722867.shtml</a>	

	14	青森の市民団体ほかと共同でむつ市と事業者リサイクル燃料貯蔵株式会社に申し入れ(2018.9.13)「中間貯蔵施設操業反対訴え」『デーリー東北』(2018.9.4)ほか報道 4件	<a href="http://kiseikanshi.main.jp/2018/09/15/122334455/">http://kiseikanshi.main.jp/2018/09/15/122334455/</a>
	15	滋賀県申し入れ(2018.10.9)「ヨウ素剤配布を脱原発団体要望」『毎日新聞滋賀版』(2018.10.14)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/shiga_q_req20181009.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/shiga_q_req20181009.pdf</a>
	16	福井県高浜町申し入れ(2018.10.12)「ヨウ素剤配布など反原発団体が要望」『福井新聞』(2018.10.13)「乾式貯蔵『拒否』を要望」『毎日新聞』(2018.10.13)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/takahama_req20181012.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/takahama_req20181012.pdf</a>
	17	福井県おおい町申し入れ(2018.10.15)「30 キロ圏内住民にヨウ素剤配布を」『朝日新聞福井版』(2018.10.16)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi_req20181015.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi_req20181015.pdf</a>
	18	核のゴミ捨て場「中間貯蔵」はいらない！関西集会(2018.10.28)「核のゴミいらない 中間貯蔵施設危うさ指摘」『毎日新聞』(2018.10.29)ほか	<a href="https://mainichi.jp/articles/20181029/ddl/k18/040/172000c">https://mainichi.jp/articles/20181029/ddl/k18/040/172000c</a>
	19	規制庁による越畑火山灰露頭調査を視察(2018.10.29)	
	20	「越畑火山灰に関する5団体の見解」(2018.11.4)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kazanbai_kenkai181104_6p.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kazanbai_kenkai181104_6p.pdf</a>
	21	高浜町で戸別訪問チラシ配布「高浜の豊かな海・山・川を子どもや孫たちに残すため町の皆さんで話し合ってください」(2018.11.11)	

	22	越畑火山灰とむつ中間貯蔵の火山影響評価について規制庁交渉(2018.11.18)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/rep_nra181116.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/rep_nra181116.pdf</a>
	23	おおい町で戸別訪問チラシ配布「おおい町の豊かな海・山・川を子どもや孫たちに残すため町の皆さんで話し合ってください」(2018.11.11)	
	24	「原子力規制委員会での越畑火山灰問題の決定を踏まえた 7 団体の見解」	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/7grp_kenkai181121.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/7grp_kenkai181121.pdf</a>
	25	「水俣と原発 写真展とトーク」(2018.12.9～14)	<a href="http://greenaction-japan.org/jp/2018/11/2610">http://greenaction-japan.org/jp/2018/11/2610</a>
		「水俣と原発考える写真展 京都、ユージン・スミスさん生誕百年」『京都新聞』(2018.12.11)	<a href="https://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20181211000028">https://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20181211000028</a>
	26	7 団体抗議声明「設置変更許可が無効の状態でも、原発を停止させない原子力規制委員会」(2018.12.12)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement181212.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/statement181212.pdf</a>
	27	福井県申し入れ(2019.1.25)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/youbou_to_fukui_chiji_20190125.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/youbou_to_fukui_chiji_20190125.pdf</a>
		「大飯 3、4 号の運転停止要望」『福井新聞』(2019.1.26)	<a href="https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/784395">https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/784395</a>
	28	28. 京都府申し入れ(2019.1.31) 「中間貯蔵反対を府に要望書提出」『京都新聞』(2019.2.1)	<a href="http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/kyoto_pref_q_yo_bo190131.pdf">http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/kyoto_pref_q_yo_bo190131.pdf</a>
	29	29. 申し入れに同席の大津留求議員が伊丹市議会で避難計画について質問(2019.3.6)	<a href="http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/SHIGIKAI/SITUMON_SITUGI_YOUSHI/youshi/shitumonnoyoushi/1551681608844.html">http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/SHIGIKAI/SITUMON_SITUGI_YOUSHI/youshi/shitumonnoyoushi/1551681608844.html</a>

	30	国相手の大飯原発裁判(大阪地裁)、老朽原発廃炉裁判(名古屋地裁)、大飯原発仮処分裁判(大阪地裁)の各裁判の傍聴支援等を継続	
		最終報告書	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/kansai01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/kansai01.pdf</a>

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b> 沖縄・球美の里 第92次母子保養</p> <p><b>【助成先】</b> NPO 沖縄・球美の里</p> <p>(活動内容)</p> <p>沖縄・球美の里は、2012年7月の開所以来、2019年月3月末現在で、4397名(子ども3538名、保護者859名)の保養者を受け入れてきました。第92回目となる保養は6月20日から6月29日の9泊10日、未就学児を中心に、子ども23名、付き添いの保護者14名、計37名が参加しました。</p> <p>久米島の豊かな自然の中で、放射能を気にすることなく、海や裸足になって芝生の上や岩山で遊ぶことが出来ました。イーブビーチや畳石ビーチを訪れ、初めて海に入った子もおり、海遊びを存分に楽しむことが出来ました。また、磯の生き物観察や久米島の生き物たちにたくさん触れることが出来ました。</p> <p>食事放射能の心配がない食材で、島のお母さんたちの愛情たっぷりの沖縄料理です。例えばサーターアンダーギーやゴマ団子などの手作りおやつを食べることが出来ました。三食の食事はジューシー(沖縄風炊き込みご飯)、パパイヤのサラダ、空心菜の和え物、ゆし豆腐などの沖縄料理、最後のお昼には久米島産の車エビなどを使ったバーベキューを食べました。久米島の保養では、毎回のように島の方々</p>	1	球美の里ブログ	<a href="http://kuminosato.blog.fc2.com/">http://kuminosato.blog.fc2.com/</a>
	2	球美の里ホームページ	<a href="http://www.kuminosato.com/">http://www.kuminosato.com/</a>
	3	球美の里フェイスブック	<a href="https://www.facebook.com/kuminosato.net/">https://www.facebook.com/kuminosato.net/</a>
	4	ニュースレター「球美の里だより」	<a href="https://www.kuminosato.com/newsletter">https://www.kuminosato.com/newsletter</a>
	5	球美の里インスタグラム	<a href="https://www.instagram.com/kuminosato/">https://www.instagram.com/kuminosato/</a>
	6	「Hello!球美の里」FMくめじま(毎週金曜 12:30-13:00)	<a href="http://fmkumejima.com/program">http://fmkumejima.com/program</a>
	7	「福島の子どもの保養施設 沖縄・球美の里 保養100回記念イベント」『広報くめじま』(2018.12)	
	8	「福島の子ども癒す歌声 久米島の『球美の里』交流100回 古謝さん記念公演」『沖縄タイムス』	
	9	「沖縄カカオプロジェクト カカオフレンズ募集」(保養支援として球美の里の紹介と寄附のお願い)	
			最終報告書



<p>から野菜などの差し入れがありますが、今回はそれに加えて「島バナナ」の差し入れがありました。初めての味に感激していました。</p> <p>甲状腺検診は、野宗義博先生が担当しました。野宗先生は島根大学教授、及び大田総合医育成センターの特任教授として勤務されていました。(三月に島根大学を退官し、広島国際大学医療経営学部教授兼島根県公立邑智(おおち)病院外科参与として、医学授業と医療活動を継続されています。)</p> <p>今回の保養は、久米島島内の方が、仕事の合間をぬってボランティアとしてお手伝いに来てくれました。また、久米島島内のなでしこ保育園の子どもたちが、球美の里に来訪し、リズム遊びやスイカ割りなどを一緒に楽しむことが出来ました。沖縄本島からは、天然酵母のパン屋「宗像堂」から手作りパンの差し入れがありました。「宗像堂」はほぼ毎回の保養に手作りパンを送ってきていただいています。球美の里のプログラムの協力としては、シーサー作りや手話サークル「くめしゅわ」の演し物、民謡グループ「なんくるさんしん」の演奏を楽しみました。毎日の保養の様子は球美の里のブログと SNS(フェイスブック・インスタグラム等)で発信しました。</p>	
--	--

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b> たらちねβ線核種測定ラボプロジェクト 2018年度</p> <p><b>【助成先】</b> 認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室「たらちね」</p> <p>(活動内容) たらちねの測定事業は 2011 年の原発事故による被曝の恐怖という暴走列車に追われるようにしてスタートした。母親たちが、子どもを守るという目的を実感し、気持ちを強く持ち、そこに多くの人々の力が集まり、現在に至る。β線核種の存在は、測定技術の困難さから、その存在が認識されず</p>	1	測定実施:β線 147 件、γ 1466 件(2018.4~2019.3)	
	2	海洋調査実施:第 10 回(2018.4)、11 回(2018.7)、第 12 回(2018.10)	
	3	冊子「たらちねストロンチウム 90 測定の巻」本誌+別冊詳細版	
	4	黄匯傑「東京観察／我們為福島能做點什麼呢？」『Think Hong Kong』(2019.2.20)	<a href="https://www.thinkhk.com/article/2019-02/20/33080.html">https://www.thinkhk.com/article/2019-02/20/33080.html</a>
	5	共同通信「Memories of Fukushima crisis rapidly fading, warn civic groups」(2018.2.16)『Japan Today』『Iran Daily』『Atomic Age』ほか掲載	<a href="https://japantoday.com/category/national/memories-of-fukushima-crisis-rapidly-fading-warn-civic-groups">https://japantoday.com/category/national/memories-of-fukushima-crisis-rapidly-fading-warn-civic-groups</a>

<p>にきた。それは福島原発事故だけでなく、それ以前の核被害の現場でも同様である。このことを可視化し、自分たちの身に何が起きているのか、これから何が起きようとしているのかを科学的に考えていくために測定は必要不可欠である。同時に測ることは心を救うことにもつながる。科学という手法から被曝の検証と心の問題の両面を支えることが、たらちねラボの活動である。不安から逃げるのではなく、追求することが怯えを払拭することにつながる。「何のために測るのか」を自覚し、日々、動いている。</p> <p>2018 年度は、たらちねラボにとって大きな方向転換の年であった。これまで、ラボのスタッフは一般の母親たちで、科学的知識が乏しいという理由から、専門家の指示通りの手作業をするにとどまっていた。それが、自分たちが不思議や謎を見つけ問題の解決に向かって階段を1段ずつ進む活動に変化していった。</p> <p>精神的にも技術的にも困難な道であるが、それを少しずつ進めていくことは、本当の意味で専門家との連携もできることとなる。また、それは市民が自立した判断をするための市民科学を行うことでもあり、社会の中の問題を自らの力で見極めることにつながる。</p> <p>福島原発事故災害の収束は、まだまだ見通しが立たない。</p> <p>膨大な量の高濃度汚染水、回収できないデブリの行方、高濃度汚染地域の立入り解除による放射能汚染の拡大など、私たちの時代では解決できない問題が大きく横たわっている。先のことを考えても解決するという気持ちにはなれないが、私たちにできることをできるところまでやるしかなく、それを次世代に伝達することができるよう尽くしていきたいと思う。</p>			<a href="https://lucian.uchicago.edu/blogs/atomicage/2019/02/16/memories-of-fukushima-crisis-rapidly-fading-warn-civic-groups-via-japan-today/">https://lucian.uchicago.edu/blogs/atomicage/2019/02/16/memories-of-fukushima-crisis-rapidly-fading-warn-civic-groups-via-japan-today/</a>
	6	Bobbie van der List 「Meet the Japanese Moms Running a Citizens' Lab to Track Nuclear Radiation」『Vice』(2019.3.12)	<a href="https://www.vice.com/en_us/article/panwqb/fukushima-nuclear-radiation-monitoring-tarachine">https://www.vice.com/en_us/article/panwqb/fukushima-nuclear-radiation-monitoring-tarachine</a>
	7	Bobbie van der List 「In Fukushima zijn burgers nog steeds bang voor straling in hun voedsel」『Trouw』(2019.3.11)	<a href="https://www.trouw.nl/home/in-fukushima-zijn-burgers-nog-steeds-bang-voor-straling-in-hun-voedsel~adb7717/">https://www.trouw.nl/home/in-fukushima-zijn-burgers-nog-steeds-bang-voor-straling-in-hun-voedsel~adb7717/</a>
	8	Misao Redwolf 「原発事故から 7 年 —— 福島巡礼『いわき放射能市民測定室たらちね』『NO NUKES PRESS web Vol.008』(2018/8.28)	<a href="http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11297">http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11297</a>
	9	Misao Redwolf 「原発事故から 7 年 — 福島の家『たらちね海洋調査』」『NO NUKES PRESS web Vol.012』(2018.12.27)	<a href="http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11756">http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11756</a>
		<b>最終報告書</b>	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/betalab01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/betalab01.pdf</a>

企画名/助成先/活動内容	成果物	
<b>【企画名】</b> たらちねクリニック・プロジェクト 2018 年度  <b>【助成先】</b>	1	述べ診療者数：1,969 人 (2018.3～2019.4)
	2	子どもドック延べ利用者数：636 人(2018.3～2019.4)
	3	活動レポート『未来の福島こども基金ニュースレター』 <a href="https://fukushimachildrensfund.org/20180716/2596">https://fukushimachildrensfund.org/20180716/2596</a>



<p><b>認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室「たらちね」</b></p> <p>(活動内容)</p> <p>2017 年 6 月にオープンしたクリニックは、今年度で 2 年目を迎えた。放射能測定室を併設した医療機関の地域の注目度は高い。特に他の医療機関で働く医師や看護師のたらちねクリニックに対する認識の高さは予想以上であった。(地域の医療関係の催しなどで、多くの人々が知ることに驚いている)被曝と向き合う医療機関という位置付けで活動をする中、同じ医療機関で働く人々に興味を持たれることは、この活動が社会に刺激や影響を与えているということでもある。</p> <p>患者数は前年比で 200%以上となっており、クリニックが地域に馴染み、信頼を得ていることがあらわれている。たらちねを安心できる医療機関として選んでくださる様々な人々の動きから、2011 年の原発事故では、いろいろな立場の人が精神的に痛手を負ったのだということを感じさせられた。こどもドックもテスト的に実施していた前年と比較すると、利用者は2倍に増えた。多くを語らずとも、保護者が子どもの健康を心配し気遣っていることがわかる。</p> <p>心のケアについては、精神科医師の他に臨床心理士の協力も得て、箱庭などの「遊びの力」で子どもたちの心を活性化できる事業をした。現在の事務所とは別の場所に「あとリエ・たらちね」を開設し、子どもと母親の心のためのスペースを作った。この事業は、取扱いの難しさがあ、クリニックと一体化の活動というのではなく、「心のケア」の分野として独立した形で進めている。</p> <p>口コミで通所する母子の数も増えている。震災・原発事故から 8 年が経ち、人々が「あの日」のことをふりかえり、考えられる時期になっている。やっと、その時がきた、という感じである。その中で、今も悔いること、自分を責めていること、子どもへのケアが不足していたことなど、見えてくることもある。身体と心のケアが本当に必要なのはこれからであることが、この1年間の活動で実感できた。</p>	No.16(2018.7)		
	4	「見えない不安を減らすために」『パルシステム放射能レポート』(2018.8)	<a href="https://information.pal-system.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/2018081_radiationreport.pdf">https://information.pal-system.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/2018081_radiationreport.pdf</a>
	5	「JCB 復興支援、「市民科学」で子どもの健康を守る」『alterna』(2018.5.1)	<a href="http://www.alterna.co.jp/24072">http://www.alterna.co.jp/24072</a>
	6	「Der einzig akzeptable Grenzwert ist null」『Brigitte』(2018.4)	
	<b>最終報告書</b>	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/clinic01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/clinic01.pdf</a>	

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b> 核燃料サイクル政策の欺瞞を明かし、政策提言を行う</p> <p><b>【助成先】</b> ストップ・ザ・もんじゅ</p> <p>(活動内容)</p> <p>日本は原子力政策を始めた時から核燃料サイクル構想を打ち出してきたが、要となる核施設の開発にことごとく失敗している。高速増殖炉もんじゅは事故と不正にまみれながら廃炉となり(2016年)、六ヶ所村再処理工場もトラブル続きで24度もの延期を繰り返して未だに竣工に至っていない。さらに日本が地震・火山大国であること、再処理工場が重大事故を起こせば福島第一原発事故の比ではないことを考えれば、こうした政策を根本から考え直すべきことは自明である。</p> <p>超危険で超無駄なこの政策の中止のため、このプロジェクトでは海外の事例に学ぶ国際シンポジウムを実施し、党派を超えた国会議員との協力体制を築いてきた。また、わかりやすいカラーリーフレットを作成し、世論形成と国会議員への働きかけを強め、核燃料サイクル中止に向けた政策提案を行った。</p> <p>6月にはフランスから渡辺謙一氏を招いて東京・青森・大阪で連続講演会及び院内ヒアリングを実施した。講演を通じ、最も先行していた米国ハンフォードの再処理施設周辺では深刻な汚染が現在も続いていること、仏ラ・アーグでも同様の汚染問題が現在起きつつあること、六ヶ所再処理施設が稼働すれば同じ道を歩む危険性が非常に高いこと、が明らかになった。またラ・アーグでは高レベル廃棄物ガラス固化体の保管場所が満杯になっていることや、新高速炉アストリッド計画が行き詰まっていることが指摘された。同講演の記録(要点書き起こし)は「ストップ・ザ・もんじゅ・ニュース」No.205(2018.7.5)に掲載した。院内ヒアリングでは、日本の新高速炉計画の無計画性、余剰プルトニウムの問題、エネルギー基本計画の矛盾、再処理施設の不正問題、規制委の火山影響評価ガイドの問題などについて質問・要望を行っ</p>	1	カラーリーフレット「地震大国・火山大国の日本に、原発・核燃料サイクルは到底ムリです。大惨事の前に一刻も早く撤退を」	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/2018_petition_leaflet_twosides.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/2018_petition_leaflet_twosides.pdf</a>
	2	6.8 院内ヒアリング記録、「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.79(2018.7.3)	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20180608_transcript.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20180608_transcript.pdf</a>
	3	6.10 関西集会・講演記録、「ストップ・ザ・もんじゅ・ニュース」No.205(2018.7.5)	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20180610_watanabe_talk.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20180610_watanabe_talk.pdf</a>
	4	11.30 ヒアリング記録、「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.83(2018.12.18)前半部/後半部	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181130_transcript1.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181130_transcript1.pdf</a>
			<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181130_transcript2.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181130_transcript2.pdf</a>
	5	11.24 関西集会・ライマン氏講演の(要約)報告、「ストップ・ザ・もんじゅニュース」No.209(2018.12.19)	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181124_Lyman_talk.pdf">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/PDFbank/20181124_Lyman_talk.pdf</a>
	6	記録 DVD「止めよう核燃料サイクル政策:プルトニウム利用はごめんだ関西集会」(2018.6.10、130分)	-
7	記録 DVD「原発も核燃もいらん! 戦争いやや関西集会」講演エドウィン・ライマン他(2018.11.24、110分)	<a href="http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/buppan.html">http://www.page.sannet.ne.jp/stoptheomonju/buppan.html</a>	
	最終報告書	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/monju01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/monju01.pdf</a>	

<p>た。同ヒアリングの記録(要点書き起こし)は「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.792018.7.3 および当団体ウェブサイトに掲載した。</p> <p>11月24日には、原子力資料情報室の協力のもと米国よりエドウィン・ライマン氏をお招きし、大阪で講演会を実施。MOXが通常のウラン燃料よりも危険で事故時のリスクが大きいこと、日本も米国のように)プルトニウムをダウンブレンディングなどの方法で処分すべきこと、その場合米国は日本に協力すべきといった点が説明された。こうした知見も加味しつつ、同月30日に再度院内ヒアリングを実施。プルトニウムをプルサーマルで「利用」することに固執する問題性を追及し、「ごみ」として「処分」することの必要性を強調した。また六ヶ所再処理施設における新規制基準の問題についても質問・交渉を行った。ライマン講演は「ストップ・ザ・もんじゅニュース」No.2092018.12.19に、院内ヒアリングの記録(要点書き起こし)は「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.832018.12.18 および No.842019.1.24 に掲載。</p> <p>以上の知見を得つつ、二度の院内ヒアリングおよびロビー活動を通じて、議員との協力関係を広める活動も実施した。特にヒアリングにはのべ18名の国会議員に参加してもらい、核燃料サイクル政策の矛盾をしっかりと理解してもらえた。2019年2月には20の議員事務所を訪れ、プルトニウムを「利用」するのではなく「処分」する方向へとシフトすることの重要性を訴えた。またこの取り組みを通じて、衆議院・原子力問題調査特別委員会や衆・参計算委員会が核燃料サイクル政策を議論する場になり得るとの示唆を得たため、今後は両委員会で核燃料サイクル政策を根本的に見直す議論を展開してもらおうよう、要請行動を続けていきたい。</p>		
--	--	--

企画名/助成先/活動内容	成果物		
<p><b>【企画名】</b>            荒廃した森を再生し、エネルギーの地産地消で持続可能なまちづくり</p> <p><b>【助成先】</b>            特定非営利活動法人おかもやまエネルギーの未来</p>	1	株式会社森の仲間たち「薪ボイラー導入検討資料」(2018.8.1)	<a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama01.pdf</a>
	2	株式会社森の仲間たち「老人保健施設 ひだまり苑におけるチップボイラー導入の可能性」	-

<p><b>を考える会</b></p> <p>(活動内容)</p> <p>岡山県高梁市の面積は森林が 78%を占めているが、所有者の高齢化などにより多くは手入れされないまま現在に至っている。一方で熱需要のある福祉施設等はほとんどを化石燃料に頼っていて、年間約 40 億円の化石燃料購入費が域外へ流出している状況にある。こうしたことから地域の「NPO 法人フォレストフォーピープル岡山」と連携して一部の森で実態調査を行い、資産価値を把握した上で間伐、林地残材をバイオマス燃料として製造・活用するモデルを作ることにした。</p> <p>事業展開中の 2018 年 7 月、西日本豪雨が発生、高梁市内も甚大な被害を受けた。これは気候変動による異常気象との関連が指摘されている。迫りくる気候変動をくい止め、世界の平均気温を 1.5℃未満に留めるためには 2050 年ごろに化石燃料の二酸化炭素排出をゼロにすることが必要とされており、地域の資源をエネルギー利用して持続可能な地域づくりをすることは喫緊の課題である。</p> <p>調査・視察としてはボイラー導入を検討するゲストハウスのオーナーとともに大垣市の小型薪ボイラーを体験、またメンテナンスの研修も受けた。他にもハウス用ストーブ、キッチンストーブ、小型バイオマス発電施設、地域熱供給でまちづくりを進める岩手県紫波町の取り組みなど、高梁地域での取り組みに参考になる情報をいろいろと収集した。</p> <p>そして、需要側として市の施設「高梁美しい森」ビジターセンターの研修室を借りて薪ストーブを設置、施設を訪れる人たちに地域の資源を地域で使うことの大切さを普及啓発している。また次年度はゲストハウスに小型薪ボイラーを導入予定であるほか、薪をログハウスメーカーに供給するなどの動きが出ている。</p> <p>高梁市には提言書とこれまでの調査結果を提出、今後改定の「高梁市新総合計画」等に木質バイオマス・エネルギーの導入推進を政策として入れてもらうよう要望した。</p>	<p>(2018.10.10)</p> <p>3 「高梁市における木質バイオマス・エネルギー活用の提言」</p> <p><b>最終報告書</b></p>	<p><a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama0103.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama0103.pdf</a></p> <p><a href="https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama01.pdf">https://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2019/06/okay_ama01.pdf</a></p>
---	--	---